

関係者各位

令和3年3月
日本学生トライアスロン連合
学生委員長 古閑 爽太郎

インカレ出場枠計算方法について

今年度のインカレ予選通過枠数を以下のようにする。

	男子	女子
北海道	4(+1)	1(-1)
東北	15(+1)	4(+1)
関東	61(-15)	27(-2)
東海北陸	9(-2)	2(+2)
近畿	29(+2)	11(+2)
中国四国	8(±0)	2(-1)
九州沖縄	14(+3)	5(+1)
合計	140(-10)	52(+2)

※男子のインカレ枠数は暫定

※カッコ内は前年度からの増減数

※ロールダウンは各予選地域内で行う。

例) 東北ブロック予選においてインカレ出場権を獲得した選手が出場辞退した場合は、東北ブロック内でロールダウンが発生する。

今年度はインカレの枠数を男子 140 人、女子 50 人で計算を行う。

2021 年度インカレ出場枠計算方法

A 方式

- それぞれの地域の登録者数を全国の登録者数に対して割合を出す。
- それぞれの地域の割合に女子は 22.5、男子は 63 をかける。なおここでの四捨五入は行わない。

B 方式

- インカレの結果を利用して総合順位最下位が 1 点となり順位が一つ上がるたびに 1 点高くなるように点数をつけていく。DNF・DNS・DSQ は 0 点とする。

- ここで、A シード・B シード使用者と代替出場者にはポイントを与えず、ポイント飛ばすことにする。
- 各地域のそれぞれの選手の点数を足し合わせていき総合点数を求める。
- ドント方式の計算式を利用して各地域の枠数を求める。このとき女子は 50、男子は 140 の枠で計算し、後に 2 で割ったものを用いる。

A 方式+B 方式

- A 方式と B 方式で得た値を足し合わせ、小数点以下を切り上げる。
- 枠数の合計が男女決まった枠数に満たない場合は、小数点第一位が大きい順で 1 枠ずつ増やし、枠を調整する。

男子										
A 方式	登録人数	割合	*63		B 方式	/2		A+B	切上げ	調整
北海道	9	0.01890	1.19118		3	1.5		2.69117	3	4
東北	41	0.08613	5.42647		17	8.5		13.9264	14	15
関東	207	0.43487	27.3971		66	33		60.3970	61	61
東海北陸	35	0.07352	4.63235		6	3		7.63235	8	9
近畿	93	0.19537	12.3088		32	16		28.3088	29	29
中国四国	33	0.06932	4.36765		6	3		7.36764	8	8
九州沖縄	58	0.12184	7.67647		10	5		12.6764	13	14
合計	476		63		140	70		133	136	140
女子										
A 方式	登録人数	割合	*22.5		B 方式	/2		A+B	切上げ	
北海道	2	0.01886	0.42453		0	0		0.42452	1	
東北	5	0.04717	1.06132		4	2		3.06132	4	
関東	51	0.48113	10.8255		31	15.5		26.3254	27	
東海北陸	5	0.04717	1.06132		0	0		1.06132	2	
近畿	24	0.22641	5.09434		11	5.5		10.5943	11	
中国四国	5	0.04717	1.06132		0	0		1.06132	2	
九州四国	14	0.13207	2.9717		4	2		4.97169	5	
合計	106		22.5		50	25		47.5	52	

昨年度からの変更点

・枠数について

例年インカレの男子では A シード選手を加え 150 人を超え、大人数によるドラフティン グレースとなり危険であるため、今年度は男子のインカレ出場者数を 150 人から大幅に超

えないようにするために、予想される A シードのおおよその数を引いた 140 人で計算を行った。ただし女子についてはそのままの人数で計算を行った。男子において A シード申請者数が 10 人を下回った場合、インカレ枠を「150－(A シード選手数)」として再度計算を行い、最終的な地域枠数を出すこととする。そのため上記に示した枠数は暫定版となる。シード申請の締め切りをもって最終的な枠数を公表する。

・ A 方式における係数について

昨年度までは男子を 150 人、女子を 50 人として計算を行っていたが、今年度は、男子 140 人、女子 50 人で計算したため、A 方式における係数を調整する必要があった。枠数計算における A 方式と B 方式の比率を男女で 0.9:1 に統一し、A 方式で用いる係数を男子は 63 (昨年度は 70.6)、女子は 22.5 (昨年度は 20.6) にした。これにより A 方式+B 方式の計算の際には小数点以下を切り上げたのちに枠数を調整することができる。

以上